

# 全国協議会 ニュース

2012年1月1日発行 第235号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21-9階  
TEL.(03)3356-8217 FAX.(03)3356-8637  
発行責任者:中野勝博  
http://www.marrow.or.jp/ E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754  
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

## 新年のご挨拶

全国骨髄バンク推進連絡協議会  
会長 市川 團十郎



新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。  
昨年一年の世相を表した漢字、それは「絆」でした。大震災として原発事故という苦難の中で、この言葉にどれだけ勇気づけられたことでしょうか。支え合い助け合う「縁」が幾つも繋がって、強固になった絆。人と人とを結んでいる縁には、莫大なエネルギーが内在しているのかもしれない。

昨年七月に、大谷前会長から全国協議会会長という大任を引き継ぐこととなりましたが、これも私が白血病を患ったのを発端に、幾つもの縁が繋がった結果です。この縁をさらに広げ、新たな協力関係を構築していくことが、会長としての私の大事な役目だと思っております。

皆様におかれましては、今年も全国協議会の活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

厚生労働省健康局疾病対策課  
臓器移植対策室長 間隆一郎

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

骨髄バンク事業は、今年で21年目を迎えます。皆様のご尽力を賜り、ドナー登録者は39万人を超え、骨髄バンクを介

して行われた骨髄移植は累計で1万3千例を超えました。  
これもひとえに、全国各地でバンクを支えて下さるボランティアの皆様方やバンク事業に携わる関係者の方々の御理解御支援の賜物であり、この場をお借りいたしまして深く感謝を申し上げます。

骨髄移植推進財団  
理事長 正岡 徹



新年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。昨年は東日本大震災に見舞われるなど、これまで経験したことのない厳しい状況が続きました。被災されました方々には心よりお見舞いを申し上げます。

骨髄移植推進財団は、昨年12月に設立20周年を迎えることができました。ドナー登録者数は昨年12月に40万人に達し、移植数は累計で約1万3千7百例となりました。これらは、ボランティアの皆様や関係者のご尽力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

今後、一人でも多くの患者さんが骨髄移植または末梢血幹細胞移植を受けられるよう、ドナー登録者の増加、ならびに患者登録から移植までのコーディネート期間の短縮に努めてまいります。

これからも移植を必要とする患者さんのため、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴協議会のますますの御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。同時に、会員皆様方の御健勝、御活躍を心より祈念いたします。新年の挨拶とさせていただきます。

日本赤十字社  
血液事業本部長 西本 至



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

最後に、貴協議会のみならず、骨髄バンク20周年という節目の年となった昨年は、登録受付ドナー数が累計で50万人を超えました。

これもひとえに、骨髄バンク事業をご支援くださる全国の多くのボランティアや関係者の皆様方の御尽力の賜物と、深く敬意を表する次第です。

日本赤十字社では、国からの依頼により昨年より骨髄バンク検査サービスを稼働し、造血幹細胞移植を必要とする患者さんや医療関係者の利便性の向上を図っております。



本年も国や関係機関と連携し、ドナー登録の受付やHLA検査をはじめ骨髄データセンター業務の充実強化に努めてまいります。結びに、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念致します。

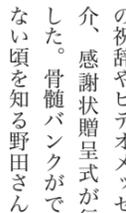
日本赤十字社  
会長 中林 正雄

謹んで新年のご挨拶申し上げます。昨年は、東日本大震災の発生に伴う福島第一原子力発電所の事故を受け、被ばくされた作業員の方々に造血幹細胞移植が必要となった際の対応に関する基本方針を日本赤十字社造血幹細胞ネットワークのホームページに掲載いたしました。さい帯血移植についても社会から関心を集めた1年でありました。

本年も、造血幹細胞移植を必要とする多くの患者さんのために、骨髄バンクをはじめとする関係機関との連携をより深め、さい帯血バンク事業の発展に努めてまいります。今後とも貴協議会に加盟されている全国のボランティアや関係者の皆様方からのお問い合わせを賜りますようお願い申し上げます。

骨髄バンク20周年記念全国大会「ありがとう20年、つなげよう未来へ」が骨髄移植推進財団の主催で開催されました。

第一部では、厚生労働大臣小宮山洋子さん、骨髄バンク議員連盟会長野田聖子さんからの祝辞やビデオメッセージの紹介、感謝状贈呈式が行われました。骨髄バンクができて間もない頃を知る野田さんの話からは、当時の熱気が伝わり、会場が一瞬10数年前にタイムスリップしたように私には感じられました。骨髄バンク黎明期からボランティア活動に携わっている方々にとっては、まさに感慨深かつたのではないのでしょうか。



全国協議会では、被災地域にお住まいの血液疾患の患者さんの状況および現地の医療機関の稼働状況について情報収集に当たると共に、「東日本大震災被災患者支援基金」を新設し、患者さんが安心して治療に専念いただけるよう、経済的支援を目的とした基金給付を実施いたしております。復興への道のりは遠いことが予想されており、支援を必要とする患者さんは今後増加してゆくものと思われ、患者さん支援に向け、皆様の温かいご援助をよろしくお願い申し上げます。

旧年を忘れることなく、しかし新たな気持ちで、夢と希望に満ち溢れる明るい年となることを願うとともに、関係機関との連携を図りながら造血幹細胞移植医療の更なる進展のため、患者とドナーの目線で理事・事務局員一丸となって頑張ります。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

2012年1月15日 第109回理事會

ように、「ケンカした日も、泣きあった日も、それぞれ彩(いろ) 咲かせて」語り合える日が早く来るといいなと、つくづく感じた一日でした。



3人の患者会の署名運動に協力

慢性活動性EBウイルス感染症(CAEV)という病気に造血幹細胞移植が有効であることがわかり、患者さんに希望がもたらされました。

ところがこの病気の、医師にもあまりよく知られておらず、診断がつかずに亡くなられる患者さんが多いようです。

EBウイルスには5歳までに5割、成人するまでにはほとんどの人が感染しているが、発症することが極めて稀です。この検査法は確立しましたが、保険適用されず、また医療現場に浸透していないので、治療法も普及していません。

わずか3人でスタートしたこの病気の患者会が、保険適用と臨床現場への周知徹底を厚生労働大臣に要望する署名活動をおこなっております。私達全国協議会もこの活動に協力したいと思います。全国の加盟団体の皆様も宜しくお願ひ致します。

(詳細2月号)

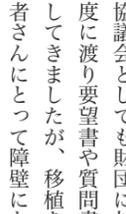
連帯保証人問題 ―その後―

骨髄移植推進財団が移植に際して患者さんに費用負担についての連帯保証人を明記するよう制度改定(改悪?)を進めようとしていた件に関して、財団

報告事項

- 財団関連
- 厚生労働省健康局訪問について(今後の予定)

側で一旦凍結(導入延期)となったことはお伝えしていましたが、新たに就任された厚生労働省臓器移植対策室の間(はざま) 室長によると、対策室としても一度事実確認を進める意向であるとのことでした。これまで全国協議会としても財団に対して数度に渡り要望書や質問書を提出してきましたが、移植を望む患者さんにとって障壁になりうる制度導入は認められないというスタンスでこれからは注視していきたいと考えます。



第108回理事会報告

12月18日 全国協議会事務局(協議事項)

- 名義後援、承認案件
- 2013年全国骨髄バンクボランティアの集いについて
- 協議会事務局移転について
- チビットワンコインの用途について
- 急性白血病患者のQOL調査への協力について
- 骨髄ドナーの休業補償制度の設立について(やまがたの会提案)
- 議事録の表記について
- 職員の募集について
- 箱根駅伝における活動助成について

基金積み増しにご協力ください

● 郵便振替 (通信欄に震災支援と記載)  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
00150-4-15754

● 銀行の場合  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951

東日本大震災被災者支援基金

11月21日~12月20日(合計3,807,867円)

渡邊 忠俊	現金	3,000円
サカエ工 伊藤栄一	現金	20,768円
宮代町立百間中学校生徒会	現金	20,000円
宮代町立百間中学校PTA	現金	24,800円
神戸骨髄献血の和を広げる会	現金	14,121円
ブルデンシャル生命保険東京第二支社(募金箱)	現金	28,708円
NPOあいち骨髄バンクを支援する会(募金箱)	現金	19,000円
京都骨髄ドナーを募る会(募金箱)	現金	31,100円
かごしま骨髄バンク推進連絡協議会(募金箱)	現金	8,705円
埼玉骨髄バンク推進連絡協議会(募金箱)	現金	42,156円

給付累計件数 17件 合計2,634,010円

財団全国大会

12月17日、東京商工会議所ビル東商ホール(丸の内)にて、

東日本大震災被災者支援基金

11月21日~12月20日(合計3,807,867円)

基金積み増しにご協力ください

● 郵便振替 (通信欄に震災支援と記載)  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
00150-4-15754

● 銀行の場合  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951

東日本大震災被災者支援基金

11月21日~12月20日(合計3,807,867円)

# 共催イベント 北から南から

鹿児島県鹿児島市  
イオンがこしまS.C.が  
骨髄バンク「色」に染まる

11月23日、勤労感謝の日。イオン鹿児島ショッピングセンターで音楽コンサート、移植体験者の闘病体験談・詩の朗読、いのちの輝き展、献血併行登録会を実施しました。



会場には、受賞者やご家族の方など約60名が参加し、緊張した中にも華やいだ雰囲気が漂い、表彰式後のアトラクションでは、杉本はるみさん作成の紙芝居「骨髄バンクってなんだろう？」をご本人に上演していただき、好評を博しました。(埼玉の会 笠原)

このイベントは姉妹ソプラノ歌手と末梢血幹細胞移植を受けて職場復帰を果たした地元局アナウンサーの協力申し出により実現したものです。「紅葉」「ローレライ」など親しみのある曲は観客を心地よい気分にいざない、また人気アナウンサーによる闘病体験談と詩の朗読は大きな感銘を与えたようです。あやちゃんやマモ君のパネル展にも多くの方が足を止めて見入っていました。献血46人、ドナー登録21人と予想以上の成果をあげた骨髄バンク20周年記念事業となりました。

(かこしまの会 大田)



埼玉県さいたま市  
「こちらも20回目」  
読書感想文コンクール  
表彰式が行われました。

12月10日、さいたま市民会館で、20回目を迎えた「いのちを考へる」読書感想文コンクール表彰式が行われました。今回のコンクールには、埼玉県内の79の小・中学校から昨年度を百通ほど上回る412通の応募があり、埼玉県知事賞を始め21人の生徒の皆さんが表彰され



ミニトークではドナー体験者、奥様、2人のお子さんの4人家族がステージに立たれ、町さんの優しさあふれる司会で、奥様やお子さんのお話を聴くことができました。娘さんの「おとうさんを尊敬している」、息子さんの「おとうさんカッコイイ」の言葉に骨髄提供の素晴らしさを改めて感じました。後半の演奏では、三戸さんのリードで会場の皆さんがクリスマスソングを楽しく合唱しました。外は冬の寒さでもコンサートはほっこりムードでいっぱいでした。出演者の皆様、お客様、楽しい一時をありがとうございました。(千葉の会 柴谷)

## 各地より 各々

募る会主催  
骨髄バンク支援音楽会

11月19日日本バプテスト連盟京都教会に於いて、「第27回響き愛 in autumn」と題し骨髄バンク支援音楽会を開催いたしました。あいにくの雨降りでしたが、前々日に、地元紙に記事が載ったこともあり、多くの観客が来てくださいました。演奏してくださるのが、福島県いわき市出身の赤津ストヤノフ樹里亜さんということで、関心を持たれた方が多かったと思われまふ。最初に京大病院小児科の渡邊先生に、骨髄バンクの必要性、ドナー登録の必要性について分りやすくお話していただきました。その後の演奏は、クラシックあり、ご自身のオリジナル曲ありで、その美しき、力強さに皆さん感動されていました。東北の患者さんたちのための寄付も多く集まり、そのまま全国協議会に送らせていただきました。(京都ドナーの会 加九)

千葉県船橋市  
骨髄バンク・チャリティ  
クリスマスコンサート

12月16日に船橋のきららホールにて、ヴァイオリン・三戸素子さんとチェロ・小澤洋介さんをお迎えして「ヴァイオリンとチェロの夕べ」を開催しました。元日本テレビアナウンサーの町亞聖さんによる温かい司会ではじまりました。2つの弦楽器のみで、こんなにもスケールの大きな演奏を聴くことができ感動しました。

ミニトークではドナー体験者、奥様、2人のお子さんの4人家族がステージに立たれ、町さんの優しさあふれる司会で、奥様やお子さんのお話を聴くことができました。娘さんの「おとうさんを尊敬している」、息子さんの「おとうさんカッコイイ」の言葉に骨髄提供の素晴らしさを改めて感じました。後半の演奏では、三戸さんのリードで会場の皆さんがクリスマスソングを楽しく合唱しました。外は冬の寒さでもコンサートはほっこりムードでいっぱいでした。出演者の皆様、お客様、楽しい一時をありがとうございました。(千葉の会 柴谷)

奈良  
フルマラソンでPR  
奈良路を激走

12月11日奈良マラソン(奈良市〜天理市間往復)が開催され、なら骨髄バンクの会のメンバー松田和義・中村準がフルマラソンに挑戦しました。二人とも胸には「骨髄バンク」のゼッケンをつけて走りまわりました。

## 心からのご寄付に 感謝申し上げます

- 11月21日～12月20日
- 豊島区明るい社会づくりの会 現金 100,000円
  - 竹里庵コンサートの会 現金 50,000円
  - ノーレート麻雀ネットワーク 現金 100,000円
  - 横山 静子 現金 2,100円
  - 塩谷 圭 現金 1,000円
  - 福岡 究 現金 10,000円
  - 五ヶ谷 公一 現金 10,000円
  - 小南 二郎 現金 2,000円
  - 三品 雅義 現金 10,000円
  - 千葉 充子 現金 5,000円
  - 匿名 現金 10,000円
  - 匿名 現金 5,000円
  - 匿名 現金 3,000円
  - 匿名 現金 7,224円
  - 匿名 現金 5,600円
  - 匿名 現金 3,000円
  - 匿名 現金 1,188円
  - 匿名 現金 12,323円
  - 匿名 現金 20,000円
  - 匿名 現金 300,000円
  - 匿名 現金 5,000円
  - 匿名 現金 10,000円
  - 匿名 現金 (敬称略)
- 白血病患者支援基金  
匿名 現金 7,224円  
匿名 現金 5,600円  
匿名 現金 3,000円  
匿名 現金 1,188円
- 佐藤さち子患者支援基金  
匿名 現金 12,323円
- 助産師中央病院  
匿名 現金 20,000円
- コットンキャップの会  
匿名 現金 300,000円
- 延賀 純子 現金 5,000円
- 高橋 清美 現金 10,000円
- 土肥 敬朗 現金 (敬称略)

活動資金の援助をお願いします  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会



折り返し地点では会のメンバーがハローキティのぼりを数本掲げ、ランナーを応援し、沿道の応援者にティッシュとリーフレットを配り、骨髄バンクをPRしていました。

コースの途中で天理よろづ相談所病院(骨髄移植認定病院)があり、会のメンバーの看護師さんと患者さんがコースに出て「骨髄バンクがんばれ〜」と大きな声援をしてくれました。途中山間コースもある初心者にはきついコースですが、今年で2回目の挑戦で慣れたもの。来年も「骨髄バンク」のゼッケンを付けて走ろうと目論んでいます。(ならの会 松田)

## 心の声

菅野美奈さん  
その2

私は10歳の時に、一時的に血小板が減少する症状が出て、一ヶ月半入院した他は出産時に入院しただけで、減りに病院に行く事もなかったし、有難い事にずっと健康でした。思い起こせば、その10歳の時の入院の際、二人部屋の同室の女の子が白血病だったのです。その女の子とは年齢も近かった事もあり、仲良く過ごしました。私は、命にかかわる病気ではなかったで予定通り退院し、その後の経過の検査で何度か病院に行きました。そして最後の検査の時に病室に行ったら、その子がいたベッドにはすでに違う子がいたのです。当時、治らない病気と聞いていたの居ないうち、この体験が占める割合は大きかったと今になって思います。結果、一人の命が救えた事は、大きな喜びです。(つづ)

## 理事会メンバーの抱負

品川保弘理事

骨髄バンクボランティアに出会った当時、まったく分野の異なるボランティア活動にどっぷりと浸かっていたのですが、間もなくその活動からは足が遠のき、気がつけば日常生活イコール骨髄バンクとも言えないう状況になっていました。協議会の役員になった当初は10年を一区切りとと考えていたのですが、気がつけば早14年。世の中に数多ボランティア活動あれど、骨髄バンクを凌ぐほどの心と体を惹きつけるものに、出会っていないからなのかも知れません。ここまで来たら、命尽きるまでこの活動に取り組みしてみようかなと思いつつ、一日も早く骨髄バンクのいらない社会の実現を見届けたい、骨髄バンクに、そして私たちの活動にピリオドを

## 骨髄バンクの最新情報をお知らせする——骨髄バンク NOW

(財団マンスリーJMDF (12月15日発行)より抜粋)

- コーディネーターおよび骨髄・末梢血幹細胞提供後の献血について  
骨髄提供の約1カ月後にドナーの方が献血に訪れたことが報告されました。自己血採血、骨髄採取、末梢血幹細胞採取などによってドナーの方の身体へ負担がかかることから、ドナーの方の安全保持の観点からコーディネーター開始から骨髄・末梢血幹細胞提供の6カ月後までの間、献血を控えていただいています。ドナーの方から質問があった場合は、前述のとおりご説明くださいますようお願いいたします。
- 読売巨人軍 越智投手・橋本選手の病院訪問  
12月14日読売ジャイアンツの越智大祐投手、橋本到外野手が東海大学病院を訪問し、入院中の子供たちを激励しました。越智投手は昨年に続いて、今シーズン一軍で33試合の出場を果たした橋本選手は初めての病院訪問となります。二人は無菌室の子供たちへプレゼントを手渡したあと院内学級のクリスマス会に参加して、ゲームや合唱などで楽しいひと時を過ごしました。
- 阪神タイガース 藤川球児投手の病院訪問  
12月9日、阪神タイガースの藤川球児投手が今年も大阪府立母子保健総合医療センターを訪問しました。藤川投手は院内クリスマスのシークレットゲストとして学校の先生役で登場し、入院中の子供たちと一緒にクイズやゲームに参加しました。続いて病棟を訪れ、入院中の子供たち一人ひとりにプレゼントを手渡しました。

■11月の区別ドナー登録者数：献血ルーム／1,547人、献血併行型集団登録会／2,275人、集団登録会／184人、その他／91人

◆日本骨髄バンクの現状(平成23年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,707	4,097	398,745	523,170
患者登録者数	224	254	2,869	34,414
骨髄移植例数	108	112	—	13,617
20歳未満ドナー登録者	—	235	16,269 <sup>1)</sup>	—
51歳以上ドナー	201 <sup>2)</sup>	154 <sup>3)</sup>	25,154 <sup>4)</sup>	—

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。  
\*1) 17年3月～ \*2) 51歳以上ドナーの延長数 \*3) 51歳以上ドナーの新規登録数 \*4) 17年9月～

うつつその瞬間に立ち会いたい、それが私の願いです。

していきたくて思っています。まわりの皆様からのご指導のもと、微力ながら一員として活動していきたくております。よろしくお願ひいたします。

地方で草の根的な運動をしてきましたが、7月より理事会のメンバーとして活動させて頂くことになりました。ボランティアのきつかけをつくっていたいた、前会長の大谷さんから勇気と元気をもらい、背中を追いかけながら骨髄バンクを推進していく活動に参加させて頂きました。これからは全国に向けて、患者さんとご家族がベストな環境で治療や生活が出来ることを目標に、また骨髄バンクを応援して下さっている皆様のお役にたてるよう、より一層の努力を

全国協議会の運営委員時代を含めると、今年度で在任十五年目。さすがに長居すぎました。その私がこの任期でやるべきこと、それは次代の新しい力にしっかりとバトンを繋ぐことだと考えています。全国協議会の役割や加盟団体との関係などについて、思いこみや既成概念に縛られない発想力や実行力。その力をサポートしていきたくります。



●柴谷 春子 理事

●四方田 淳 理事